令和８年度　第２回学校運営協議会　議事録

県立鶴見高等学校

実施日時	令和８年 10 月 26 日（月）14：30～16：30
出席者	学校運営協議会委員 荏原　道江 長島 由佳 岡本　健司 石井 一登 守屋　一司 榊原　圭子 田代　武 本校職員
議事 （質問・意見・要望・回答等）	学校運営協議会設立の確認 本日の予定について １　校長あいさつ １．神奈川県の新たな高校教育改革の計画案 県教育委員会が、令和９年度から５年間の新たな計画を検討している 背景としては国による公立高校への支援と、それに対応する都道府県の計画策定 改革の方向として、次の３点 ・不確実な時代を自立して生きるための、AI に代替されにくい能力や個性の伸長。 ・地域の経済・社会を支える人材の育成。 ・一人ひとりの多様な学習ニーズへの対応。 ２．ネクストハイスクール構想について 高校を３つの類型に分けた取組 類型１　工業・商業・農業などの専門高校で、高度な専門技術を持つ人材を育成する。 類型２　普通科などの特色を明確にし、理数系人材の育成や文理融合の学びを進める。 類型３　地理的な条件などにも配慮し、多様な学びの機会を確保する。 県内の３校を拠点に先行的な取組を行い、協力校などを通じて他校に広げる構想が説明されている。 本校は類型２に当たると考えられ、文系も大切にしながら、理系選択者の増加や教科横断的な学びに向けて、カリキュラムの見直しを検討する必要がある。 計画案について、県がパブリックコメントを実施している。

	３.生徒数の減少と募集規模の縮小 県内では、今後の生徒数減少に対応する必要がある 横浜市内でも地域差があり、鶴見区ではまだ減少していない一方、港北区・青葉区・緑区などでは減少している 複数の高校で１学級ずつ減らす予定がある ２　委員の委嘱について ３　自己紹介 ４　学校運営について ５　教育活動視察 ６　各グループリーダーによる本年度の目標についての進捗状況の説明 質疑応答 １．生徒が新しい行事や企画を生み出しにくい理由 質問・意見：生徒主体の新しい企画が実現しにくいのはなぜか。既存の行事には取り組んでいても、「もっと楽しくしよう」「新しいことをしよう」という動きが弱いのではないか。 回答：生徒には、先輩から引き継いだ内容を前年と同じように進めようとする傾向がある。新しいアイデアを出し、企画から運営まで主体的に進める仕組みは、十分にできていない。 追加の提案：経験したことのない活動を、生徒だけで発想するのは難しい。他校の行事やイベントを見学したり、交流したりして、外部の実例に触れる機会をつくることが突破口になるのではないか。 ２．文化祭に関するホームページの更新の遅れ 質問：今年度の文化祭の情報更新が遅かったように感じるが、理由はあるか。 回答：特別な理由があったわけではなく、業務が追いついていなかった。役割分担などを工夫して改善したい。 学校側の報告でも、行事終了後２週間以内の更新を目指しているものの、情報整理が追いついていないことが課題 ３．自転車通学時のヘルメット着用率の改善 質問：これまでの取組で効果が出なかった点と、今後取り組みたいことを教えてほしい。 回答：学校としては、「叱られるから着用する」のではなく、生徒自身が必要性を理解し、自分の安全のために着用する姿を目指している。そのため、未着用への罰則などには慎重である。生徒会を通じ、生徒から生徒へ呼びかける取組も行ったが、着用率の大きな変化にはつながっていない。次の具体策は、まだ十分に定まっていない。 追加の提案：学校と生徒会だけでなく、保護者にも協力を求めてほしい。家庭でも着用

	の必要性を共有し、登校から帰宅までの安全を支えることで、複数の方向から働きかけられる。 ４．挑戦する姿勢を育てるための学校・家庭・企業の連携 意見：企業では、計画を立て、結果を振り返り、改善する PDCA を重視している。学校では生徒が３年間で入れ替わる難しさもあるが、学校だけで抱え込まず、家庭とも協力して改善を積み重ねてほしい。また、失敗しても次に挑戦する経験を、子どもの頃から積ませることが大切であり、企業としても協力できることがあれば支援したいとの申し出があった。 学校側の説明：既に一部の生徒は、県警と連携したサイバーボランティアや、バスの運転手への取材を基にしたマナー啓発動画の制作などに挑戦している。こうした活動が、より多くの生徒へ広がるよう支援したい。 ５．総合的な探究の時間における成果発表と、他の活動との調整 質問：探究活動の最後の発表について、どのような工夫をしているか。中学校では、総合的な学習の時間が行事準備などに使われ、探究まで十分に取り組めないこともある。 回答：各学年の年度末に、個人・グループなどの形で成果を発表する活動を設定している。 一方で、探究、ロングホームルーム、進路活動、行事準備の時間の使い分けには曖昧な部分があり、学年や他の担当との調整・見直しが必要である。 また、地区の探究活動発表会なども活用し、総探での成果に加えて、他教科での優れた取組を発表につなげることも検討している。他教科の実践を総探へ取り入れるなど、相互に広げていきたい。 ６．学校説明会で、生徒の学習や行事の成果をもっと紹介できないか 質問・提案：説明会で生徒が案内を担っていることは高く評価できる。探究の発表、スピーチ、合唱などにも優れた活動があるため、記録映像やダイジェストで紹介してはどうか。 中学生にとって、「この学校に入りたい」「こういう先輩になりたい」と思うきっかけになる。 回答：現在は、生徒が制作した部活動紹介動画を説明会で上映している。今後は、部活動以外の学校生活や学習活動の成果についても発信していきたい。 ７．形成的評価の実施 100％と、教員の負担への配慮 質問：形成的評価の実施 100％という目標は意義がある。一方、時間や労力がかかり、工夫しなければ負担感につながる。どのような工夫をしているか。 回答：現状、すべてで 100％実施できているということではない。 また、回答者個人の考えとして、形成的評価には、大がかりな提出物や振り返りの評価

	だけでなく、日々の活動へのコメントや、「こうするとよい」という短い助言も含まれると説明した。そうした働きかけを生徒の次の学習につなげ、生徒の状況を踏まえて教員も授業を改善するという、小さな取組から浸透させたいとしている。 追加の意見：その考え方を、教職員全体で共有することが重要である。既に日常的に行っている取組も含まれることが伝わらず、「新たな仕事を追加しなければならない」と誤解されないようにしてほしい。共通理解が、継続の鍵になる。 ８．授業への評価と、地域活動への参加を促す働きかけ 授業見学への評価：生徒の自発的な学びを促すとともに、理解につまずいた生徒を取り残さず、支えようとする教員の姿勢が感じられた。こうした姿勢や実践を、担当者だけでなく教職員全体で共有してほしいとの意見があった。 地域連携への提案：学校のよさや生徒の活動を、教職員や関係する大人も積極的に地域へ発信する。 地域行事やボランティアを紹介する際には、募集情報に加えて、活動の楽しさや意義を具体的に伝える。 生徒が自力で機会を見つけるのを待つだけでなく、大人が参加のきっかけをつくる。 PTA、地域、企業、中学校などが、それぞれ協力できる内容を持ち寄る。 学校運営協議会での意見交換を、実際の活動や支援につなげる。 関連する質疑：サイバーボランティアの参加経緯について質問があり、学校側からは、県警からの協力依頼を生徒に紹介したところ、参加したい生徒が出てきたと説明された。これを受け、具体的な機会を示すことが、生徒の自発的な行動につながるとの意見があった。 ９．文化祭の花火について 質問：どのような経緯で行われているのか。 回答：生徒の要望を受け、生徒会などと担当教員が相談して進めてきた。今年度は天候の影響で文化祭時に実施できず、12 月の実施を予定しているとの説明があった。 ７　会長による議事確認 ８　閉会の言葉